FGI FinTech Global Incorporated

The firm of innovative financing

2023年9月期　第2四半期
決算説明資料

2023年5月

フィンテック　グローバル株式会社

（東証スタンダード市場：8789）

https://www.fgi.co.jp/

フィンテック / FinTech (登録5113746)・FinTech Global (登録5811521)・フィンテックグローバル (登録5811522)・FGI (登録5113748)は、
フィンテック グローバル株式会社の登録商標です。

目次

総括・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
連結業績概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
四半期連結業績推移・・・・・・・・・・・・・・・・・4
セグメント別業績・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
投資銀行事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
公共コンサルティング事業・・・・・・・・・・・・・11
エンタテインメント・サービス事業・・・・・・・・13
連結財務諸表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
連結経営指標等の推移・・・・・・・・・・・・・・・20
会社概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21

Copyright© FinTech Global Incorporated

総括

事業承継問題に、投資を中心とするソリューションを提供するプライベートエクイティ（PE）事業が好調に推移し、増収、黒字転換。
第３四半期以降も、順調な進捗を見込む

事業承継案件における投資および業務受託により、８億円の売上高・利益を計上

・複数の事業承継案件におけるソリューション提供による投資収益と業務受託収益によって、
売上高、営業利益及び経常利益にそれぞれ８億円を計上。
・上記の８億円のうち、当第２四半期に３億円を計上。翌第３四半期に５億円を計上予定。

新規投資は順調に推移。買収ファンドの資金調達額は、前年通期実績の89%まで進捗

・事業承継案件への投資のために組成した買収ファンドの資金調達額（≒投資額）は、当第2四半期累計で134億円。
第3四半期から次期において回収を見込む。

受託資産残高は、前期末比15.9%増加、651億円に

・海外投資家によるレジデンス、物流施設投資のアセットマネジメントが増加。

Copyright© FinTech Global Incorporated

連結業績概況

（単位：百万円）

	2022年9月期 第2四半期累計	2023年9月期 第2四半期累計	増減額	増減率	通期業績予想 2022/11発表	業績予想 進捗率
売上高	4,421	4,530	109	2.5%	10,100	44.9%
売上総利益	1,609	2,381	772	48.0%	―	―
営業利益	△39	645	685	―	1,400	46.1%
経常利益	△51	628	680	―	1,400	44.9%
親会社株主に帰属する 四半期（当期）純利益	△203	477	680	―	1,000	47.7%
償却前営業利益	262	880	617	235.1%	―	―

・償却前営業利益＝営業利益+売上原価・販管費に含まれる減価償却費及びのれん償却費

売上高

PE事業において事業承継案件による投資収益と業務受託収益が大幅に増加。
航空機AMも伸びる。㈱ライツ・アンド・ブランズ（RBJ）が連結除外となるも、増収。

売上総利益

粗利率が高い事業承継案件の売上増加により大幅に増加。

営業利益

販管費は、事業拡大に伴い前年同期比5.2%増となるも、
売上総利益の増加により、営業損益以下の各段階利益は黒字化。

連結業績予想

事業承継のソリューションへの引き合いは続いており、今後も順調な案件の組成を見込む。
当第２四半期までに組成した案件の投資回収見込みなども総合的に考え、通期業績予想の達成に向けて順調に進捗していると評価しており、業績予想値は変更せず。

Copyright© FinTech Global Incorporated

四半期連結業績推移

（単位：百万円）

	2022/9期						2023/9期			前Q2比 増減額 （増減率）	前Q2累計比 増減額 （増減率）
	Q１	Q２	Q２累計	Q３	Q４	Q４累計	Q１	Q２	Q２累計		
売上高	2,272	2,148	4,421	2,328	2,552	9,301	2,716	1,814	4,530	△ 334 （△ 15.6%）	109 (2.5%)
売上総利益	897	712	1,609	1,071	1,309	3,990	1,597	783	2,381	71 (10.0%)	772 (48.0%)
営業利益	62	△102	△39	190	437	587	720	△74	645	28 –	685 –
経常利益	39	△91	△51	165	426	540	699	△71	628	19 –	680 –
親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益	△47	△155	△203	62	316	176	503	△25	477	129 –	680 –
償却前営業利益	213	49	262	313	577	1,153	836	44	880	△ 5 （△ 10.3%）	617 (235.1%)

・償却前営業利益＝営業利益+売上原価・販管費に含まれる減価償却費及びのれん償却費

Copyright© FinTech Global Incorporated

セグメント別業績 - 1

・投資銀行事業は、複数の事業承継案件が順調に進み、増収増益。
・公共コンサルティング事業は、前期に国が自治体に配布した公会計ソフトのサポート終了に伴って発生したソフト販売があった反動や、営業強化に伴う費用増加により、減収減益。
・エンタテインメント・サービス事業は、㈱ライツ・アンド・ブランズの連結除外により、減収減益。

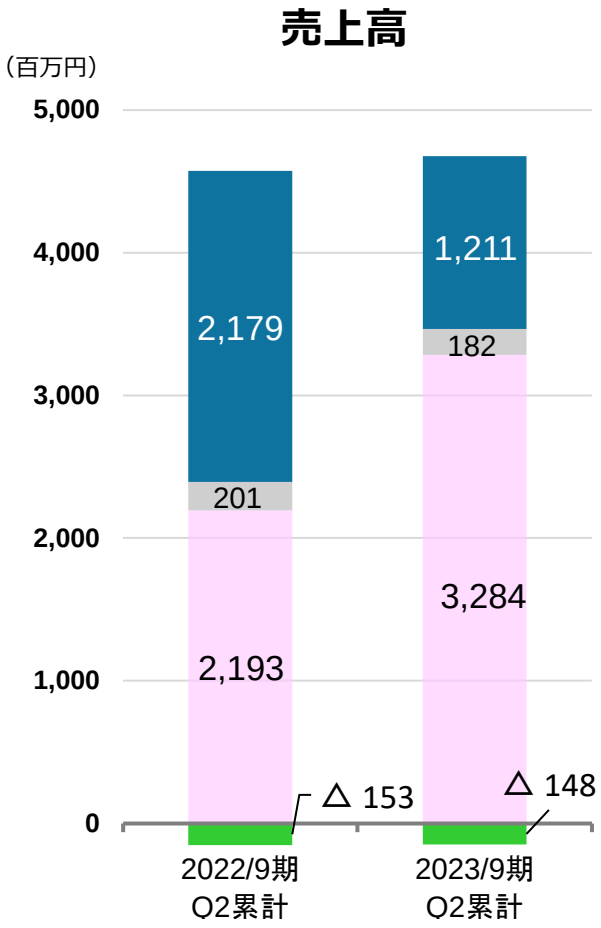
（単位：百万円）

報告セグメント	科目	2022/9期						2023/9期			前Q2比	前Q2累計比
		Q1	Q2	Q2累計	Q3	Q4	Q4累計	Q1	Q2	Q2累計		
投資銀行事業	売上高	1,058	1,135	2,193	1,267	1,512	4,973	1,989	1,295	3,284	159	1,091
	売上総利益	574	507	1,081	773	1,095	2,951	1,446	753	2,200	246	1,118
	セグメント利益	198	112	310	259	610	1,180	933	259	1,193	147	882
公共コンサルティング事業	売上高	108	92	201	62	82	346	90	92	182	0	△18
	売上総利益	54	49	103	40	46	189	48	46	95	△2	△7
	セグメント利益	8	3	12	△13	△13	△14	△7	△10	△17	△13	△30
エンタテインメント・サービス事業	売上高	1,181	997	2,179	1,073	1,033	4,285	713	498	1,211	△499	△967
	売上総利益	301	187	489	287	198	975	134	13	148	△173	△340
	セグメント利益	36	△61	△25	31	△40	△34	△18	△140	△158	△78	△132
調整額（セグメント間取引消去又は全社費用）	売上高	△76	△76	△153	△75	△75	△303	△77	△71	△148	5	4
	売上総利益	△32	△32	△64	△30	△31	△126	△32	△30	△62	1	1
	セグメント利益	△180	△156	△337	△87	△118	△543	△187	△183	△371	△27	△33
連結ＰＬ計上額	売上高	2,272	2,148	4,421	2,328	2,552	9,301	2,716	1,814	4,530	△334	109
	売上総利益	897	712	1,609	1,071	1,309	3,990	1,597	783	2,381	71	772
	営業利益	62	△102	△39	190	437	587	720	△74	645	28	685
関連事項			まん延防止等重点措置（東京都、埼玉県は1/21－3/21）			新型コロナウイルス第7波		新型コロナウイルス第8波 RBJを連結除外				

・各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高又は振替高を含めた売上高です。
・調整額（セグメント利益）（2023年9月期Q2累計は△371百万円）には、セグメント間取引消去（2023年9月期Q2累計は114百万円）及び報告セグメントに配分していない全社費用（2023年9月期Q2累計は△485百万円）を含む。全社費用は合理的な配分が難しいなどの理由により報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

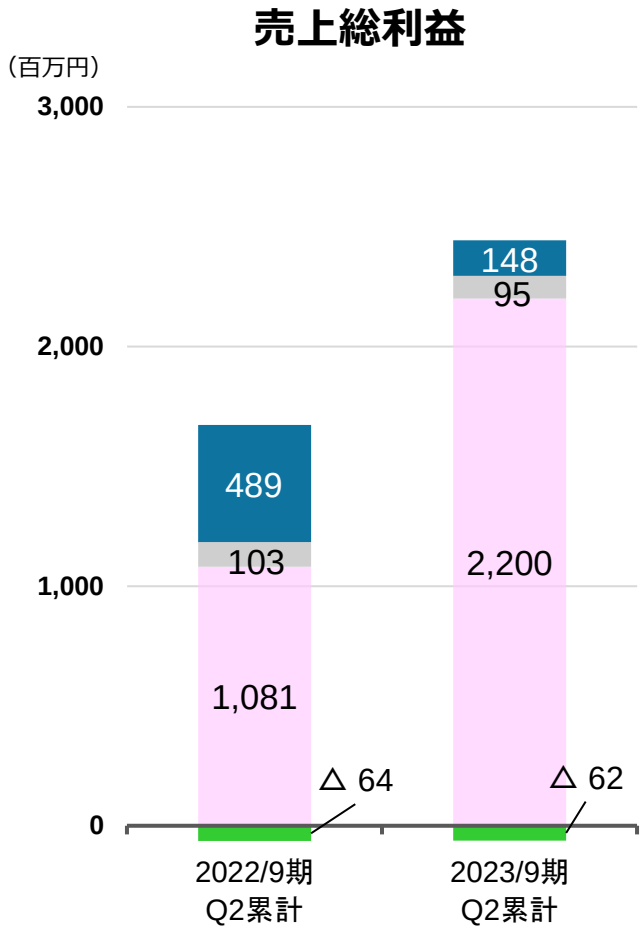
Copyright© FinTech Global Incorporated

セグメント別業績 - 2



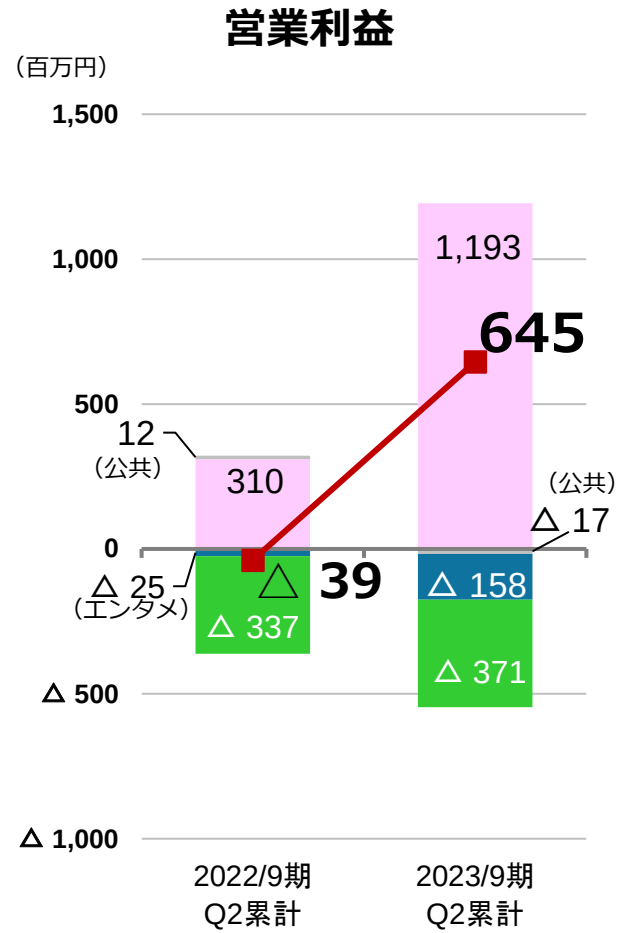
4,421　**4,530**

109百万円増（2.5%増）



1,609　**2,381**

772百万円増（48.0%増）



685百万円増

（注）セグメント別内訳は、他のセグメントとの取引を消去しない数値を使用。

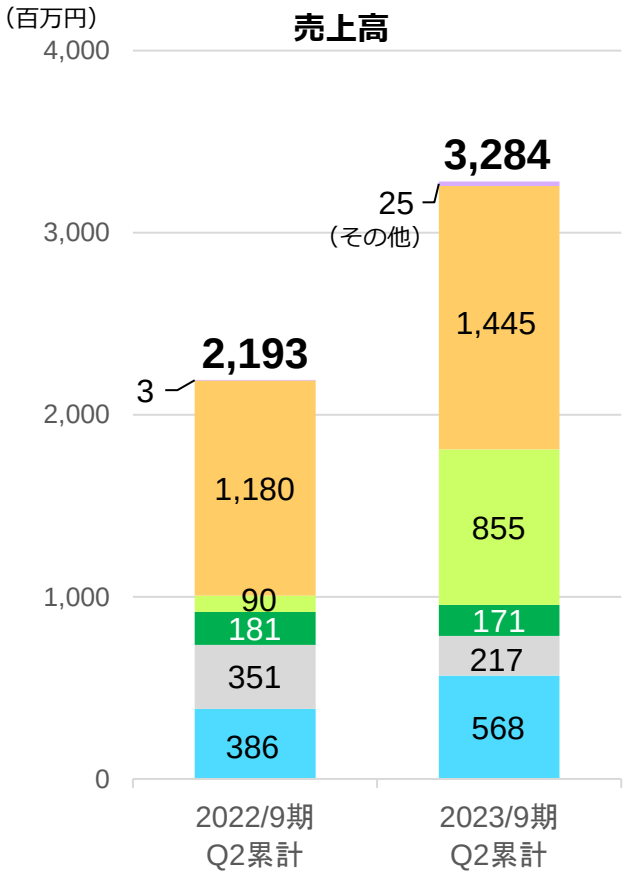
投資銀行事業　公共コンサルティング事業　エンタテインメント・サービス事業　全社費用または取引消去

Copyright© FinTech Global Incorporated

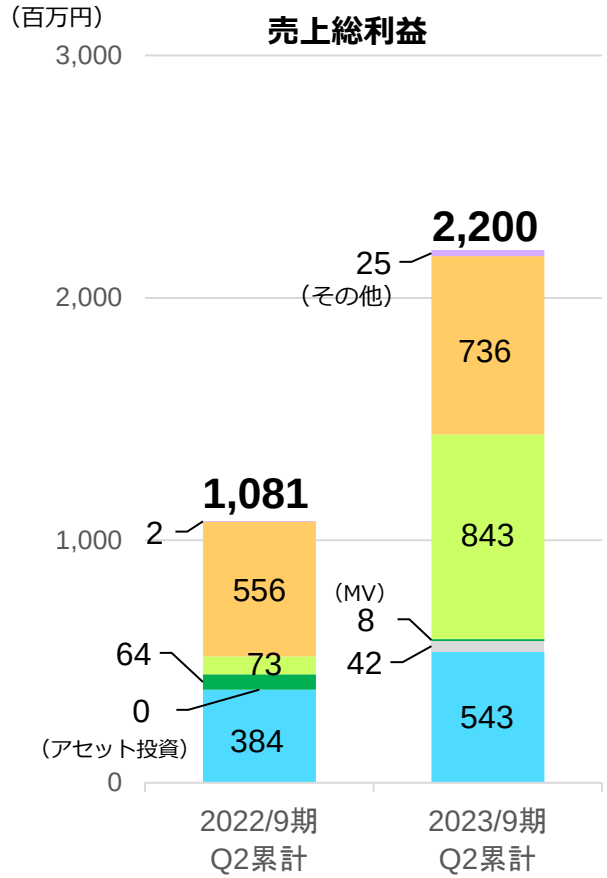
投資銀行事業セグメント－業務別売上高、売上総利益

PE事業における事業承継案件の収益増加により、大幅増収。航空機AMの好調も続く。

- **業務受託、PE投資**　前期に組成した事業承継案件の投資回収により、収益を計上。
  新規の事業承継案件の業務受託によるアップフロントフィーなどの収益を計上するとともに、新規投資を実行。
- **航空機AM**　コロナ禍の沈静化により、機体検査や機体返還などの技術サービスは減速するが高水準の売上を維持。
  航空機登録サービスの増加や、航空機リマーケティングなど新たな取り組みにより増収増益。



1,091百万円増（49.8%増）



1,118百万円増（103.4%増）

- その他
- 航空機アセットマネジメント
- プライベートエクイティ投資（PE投資）
- メッツァビレッジ（MV）
- アセット投資
- 業務受託（アレンジ、アセットマネジメント、不動産仲介等）

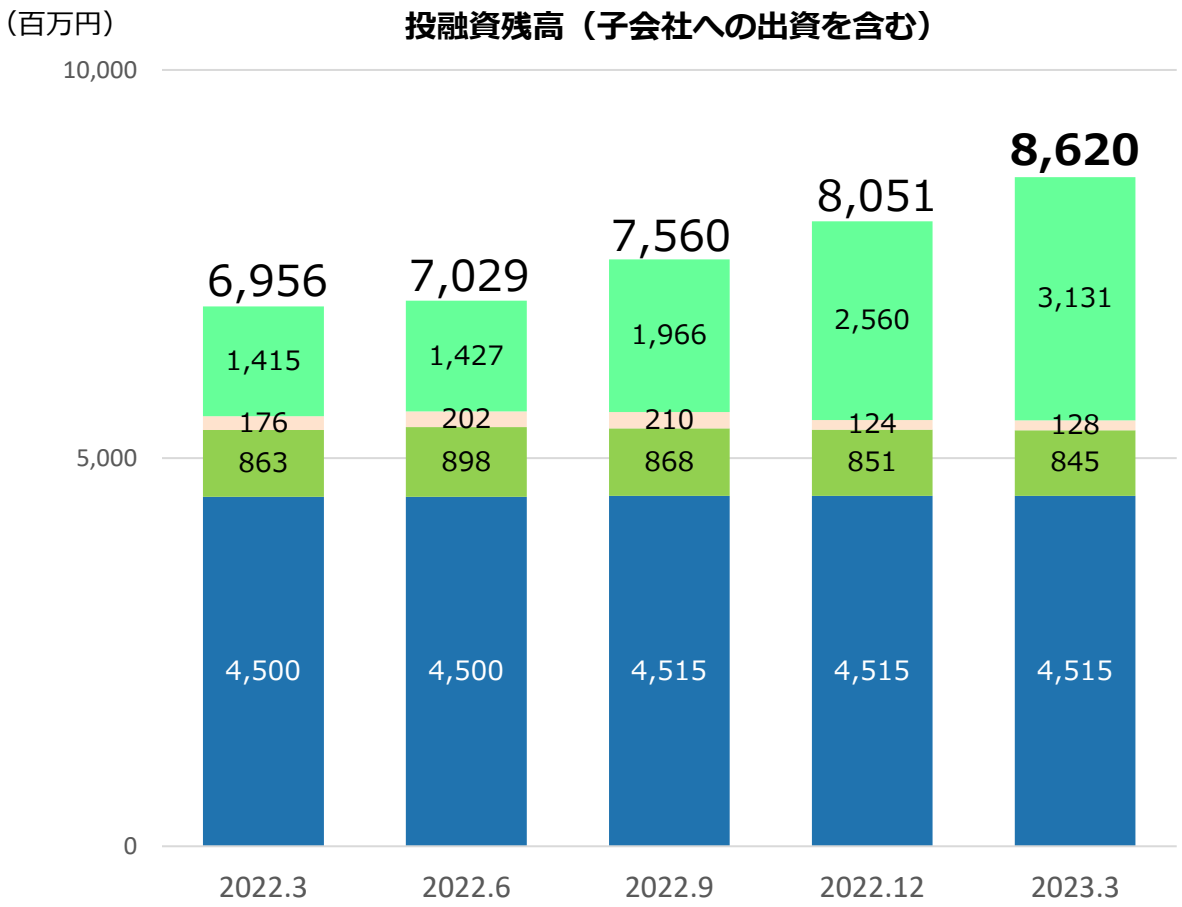
（注）セグメント間の内部売上高は、消去しない数値を使用。

Copyright© FinTech Global Incorporated

投融資残高の推移

事業承継案件において、買収ファンドからの分配があったものの、
数件の新規投資を実行した結果、投融資残高は2022年12月末比7.1%増の86億円となる。

(注) 1　投融資残高は当社、aviner㈱ の合計
　　 2　FGI、aviner㈱間の出資・貸付は、含めず。



プリンシパルインベストメント
ベンチャーキャピタルファンドへの投資を除く営業投資有価証券、投資有価証券、関係会社株式、関係会社出資金の合計額。

ベンチャーキャピタルファンド
2ファンドへの投資

企業融資
営業貸付金、子会社への短期貸付金の合計額。全額引当している債権は含めないが、子会社貸付は全額計上。

不動産等(メッツァ)
メッツァにおける不動産。
メッツァビレッジの不動産は仕掛販売用不動産・販売用不動産に計上。ムーミンバレーパークの土地は、法的には地域SPCに譲渡しているが会計上は当社固定資産に計上しているため、当該金額に含めている。

Copyright© FinTech Global Incorporated

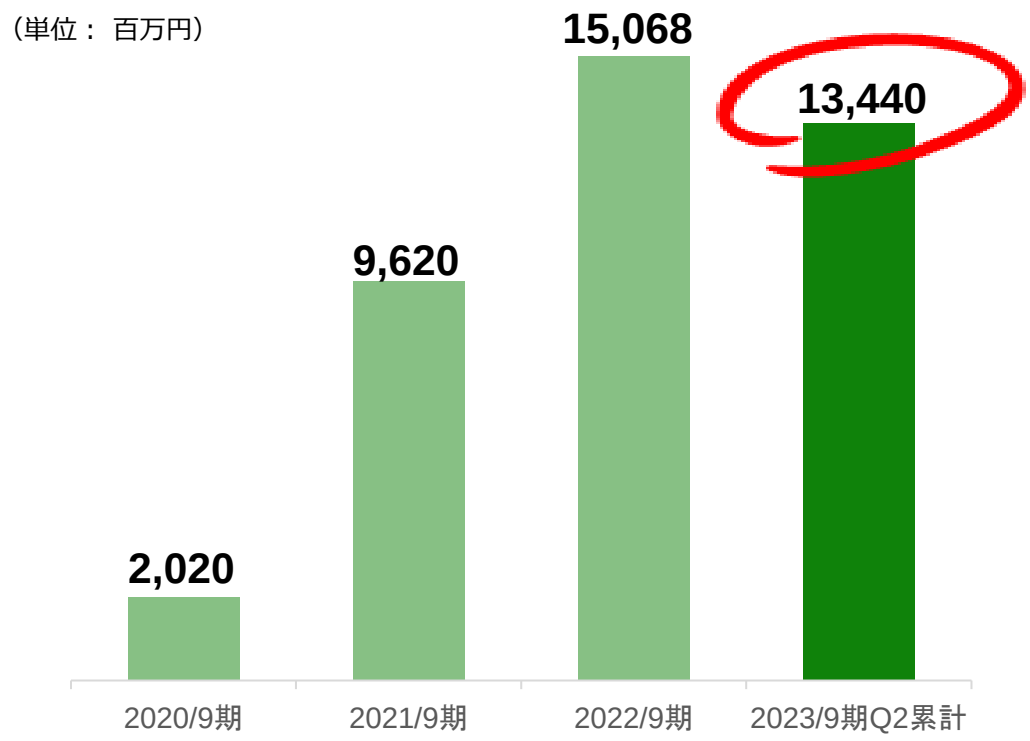
事業承継案件への投資額

当第2四半期累計の買収ファンド調達額 (≒ 投資額）は、134億円。前期通期実績の89%まで進捗。高水準の投資が続く。

- FGIの出資と金融機関のローン等によって事業承継案件への投資のために組成した買収ファンドの資金調達額は、年々増加。当第2四半期連結累計期間は134億円となり、前期通期実績の89%まで進捗。
- 当該投資は、第3四半期から次期において回収を予定。
- 金融機関等からの案件紹介は継続しており、今後も案件組成と新規投資が続く見込み。

買収ファンドによる調達資金総額

(各期の調達額)



第2四半期で前期通期実績の89%まで進捗

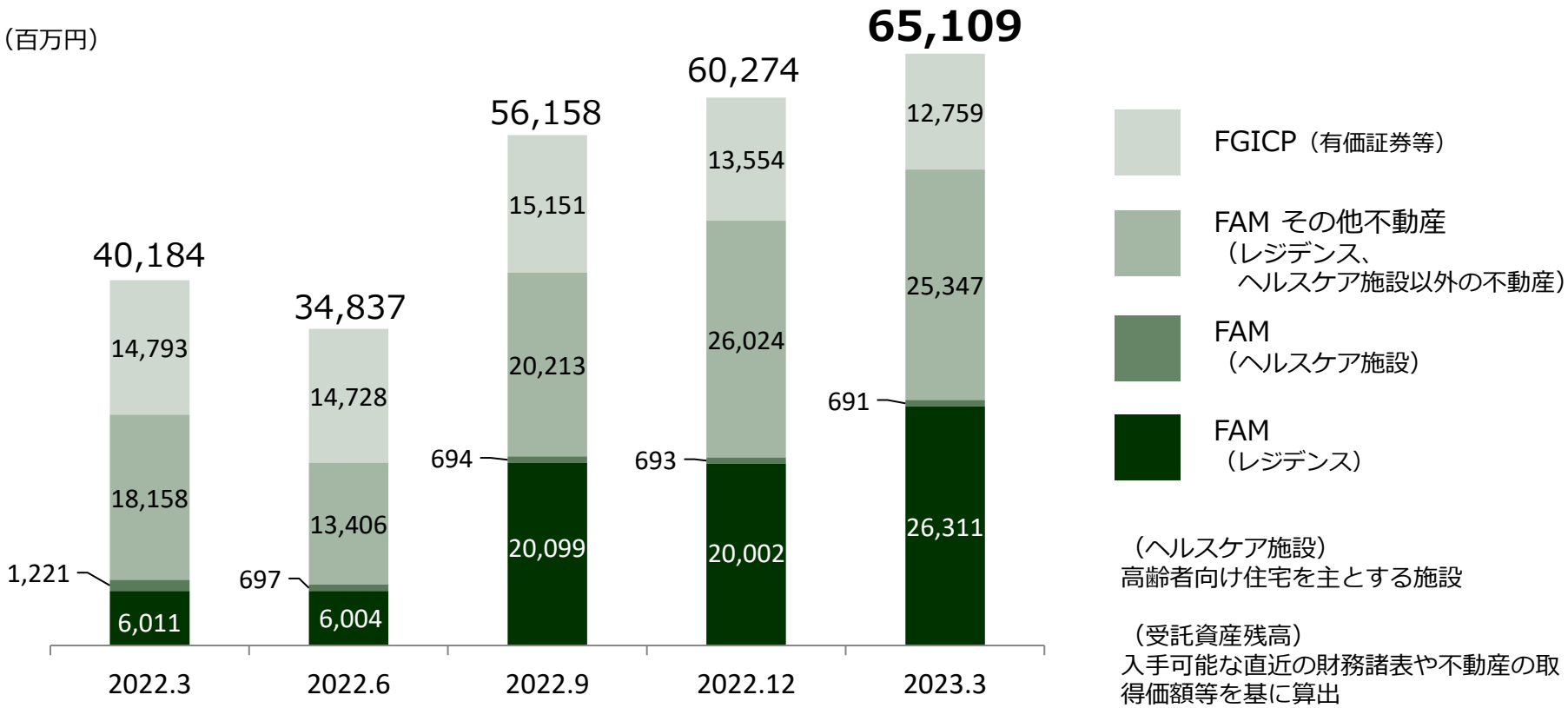
Copyright© FinTech Global Incorporated

受託資産残高の推移

フィンテックアセットマネジメント㈱（FAM）
FGIキャピタル・パートナーズ㈱　　（FGICP）

海外投資家によるレジデンス、物流施設投資のアセットマネジメントが増加。
受託資産残高は、前期末比15.9%増の651億円に。

上記とは別に投資助言契約における顧客の資産額は1,041億円（FGICP、前期末比123億円増）となる。
（顧客の資産は、主に太陽光発電システム）



（ヘルスケア施設）
高齢者向け住宅を主とする施設

（受託資産残高）
入手可能な直近の財務諸表や不動産の取得価額等を基に算出

Copyright© FinTech Global Incorporated

公共コンサルティング事業の状況

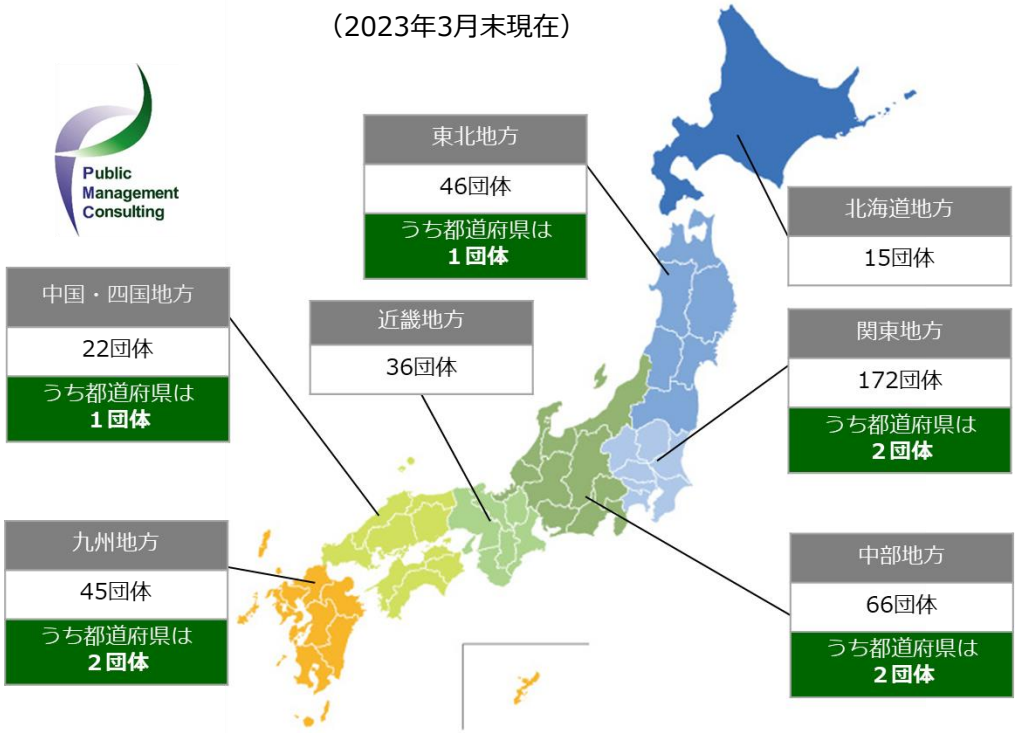
㈱パブリック・マネジメント・コンサルティング（PMC）

地方公共団体等との累計取引実績は402団体。大規模自治体の財務書類作成支援業務を拡大

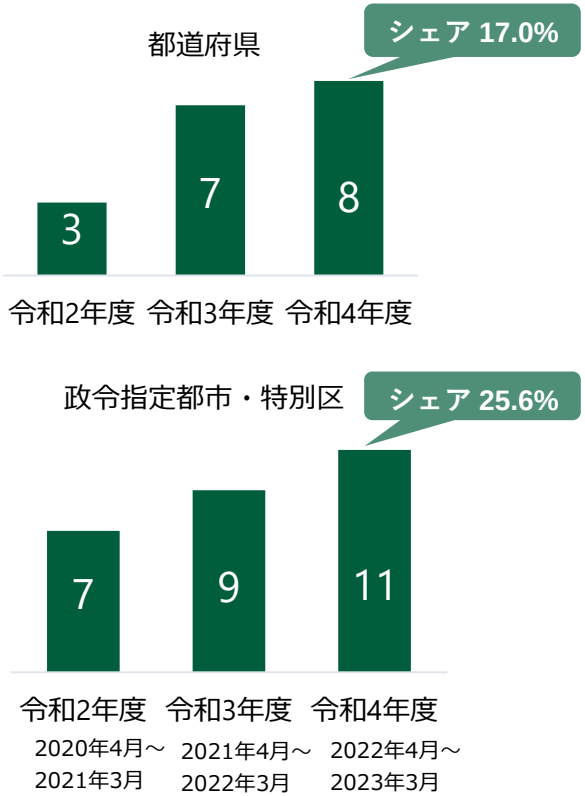
- 公会計を中心に、公共施設等総合管理計画の策定・見直しや公営企業会計の支援、経営・財務コンサルティングなどを行う子会社PMCの地方公共団体等との累計取引実績は402団体（2023年3月末現在）。
- 大量の財務情報を有する大規模自治体から、財務書類作成に関する知見と、情報技術・大量データ処理に専門性を有するPMCへの引き合いが増加。2023年4月から開始した令和5年度では、新規の都道府県１団体からの受託が決定。

地方公共団体等との累計取引実績

（2023年3月末現在）



財務書類作成支援業務　受託団体数



Copyright© FinTech Global Incorporated

新たな地域課題ソリューションを検討

地方自治体の財源創出サポートを検討

- 人口減による税収減、社会保障負担増加、老朽化する公共施設改修等により、地方自治体の財政は厳しさを増す。
- FGIグループは、これまで地方財政に対して公会計支援や資産活用のコンサルティングによりアプローチしてきたが、地方財政の持続可能性を高めるため、自治体が社会課題を解決しながら財源を創出するアプロ―チを検討中。

地方財政の持続可能性を高めるアプローチ

会計・財政コンサル

（地方公共団体）
・財務書類作成支援
・公共施設マネジメント支援
・資金管理支援

（地方公営企業）
・公営企業法適用化支援
・経営戦略作成支援

連携

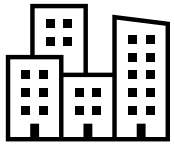
LPRC
Local Public accounting Research Center

一般社団法人
地方公会計研究センター

資産活用コンサル

公共資産活用計画

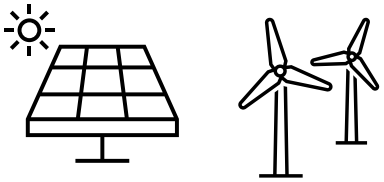
・事業化支援
・施設整備計画支援



財源創出

「稼ぐ自治体」を支援

・再生可能エネルギーによる電気を売電等



Copyright© FinTech Global Incorporated

エンタテインメント・サービス事業ー業績等

メッツァは増収となるも、RBJの連結除外により当セグメントは減収減益。

・来園者が多い11月、3月の週末や祝日に悪天候が多く、来園者数は前Q2累計比で8.1%減少。

・イベント効果とECサイトの物販により、メッツァ関連は増収。

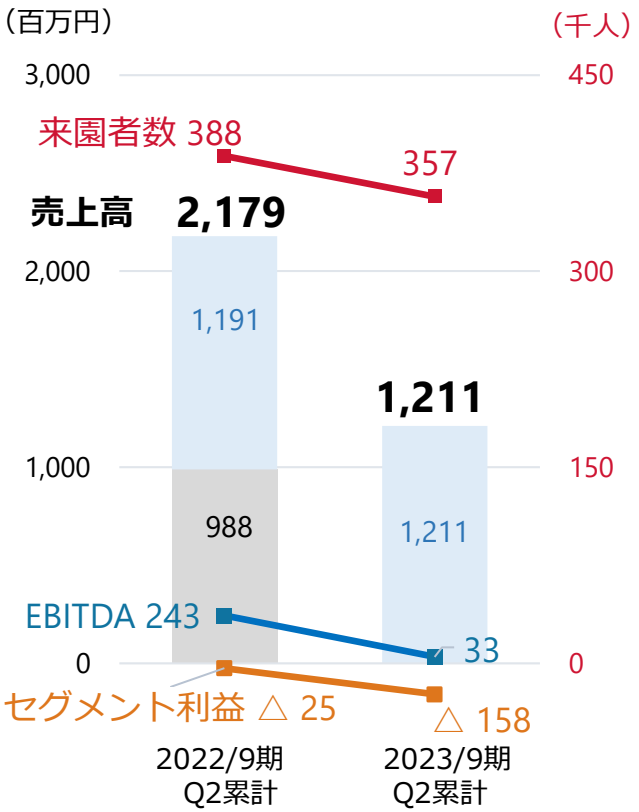
・メッツァ関連の費用は、2022年12月のリニューアルによる固定費削減により、前Q2累計比で減少。

・Q1に連結除外（持分法適用関連会社化）した㈱ライツ・アンド・ブランズ（RBJ）の業績は計上せず、営業外損益において持分法による投資損益として計上。

売上高

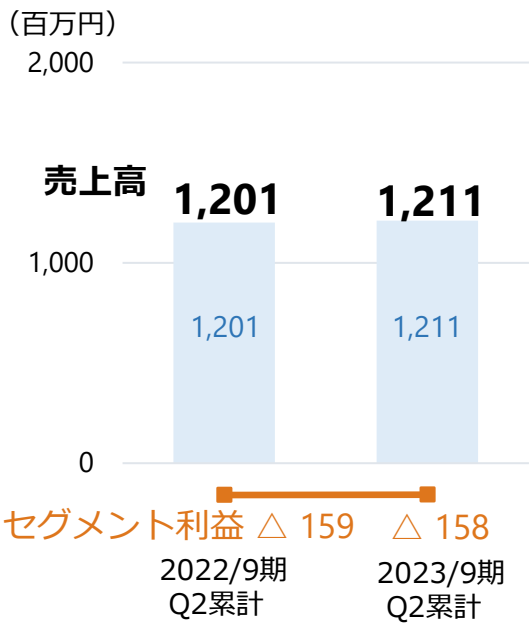
メッツァ関連（㈱ムーミン物語、㈱メッツァ）

ライセンス収入・アニメ放映権収入（RBJ）



（ご参考）

前四半期にRBJ非連結の場合の業績



(注)1　来園者数は、メッツァビレッジ・ムーミンバレーパークの合計。

2　売上高は他の報告セグメントとの取引を消去しない数値を使用。

3　EBITDAは、セグメント利益に売上原価、販売費及び一般管理費に含まれる減価償却費及びのれん償却費を足し戻して算出。

Copyright© FinTech Global Incorporated

エンタテインメント・サービス事業ー業績等（四半期）

売上高

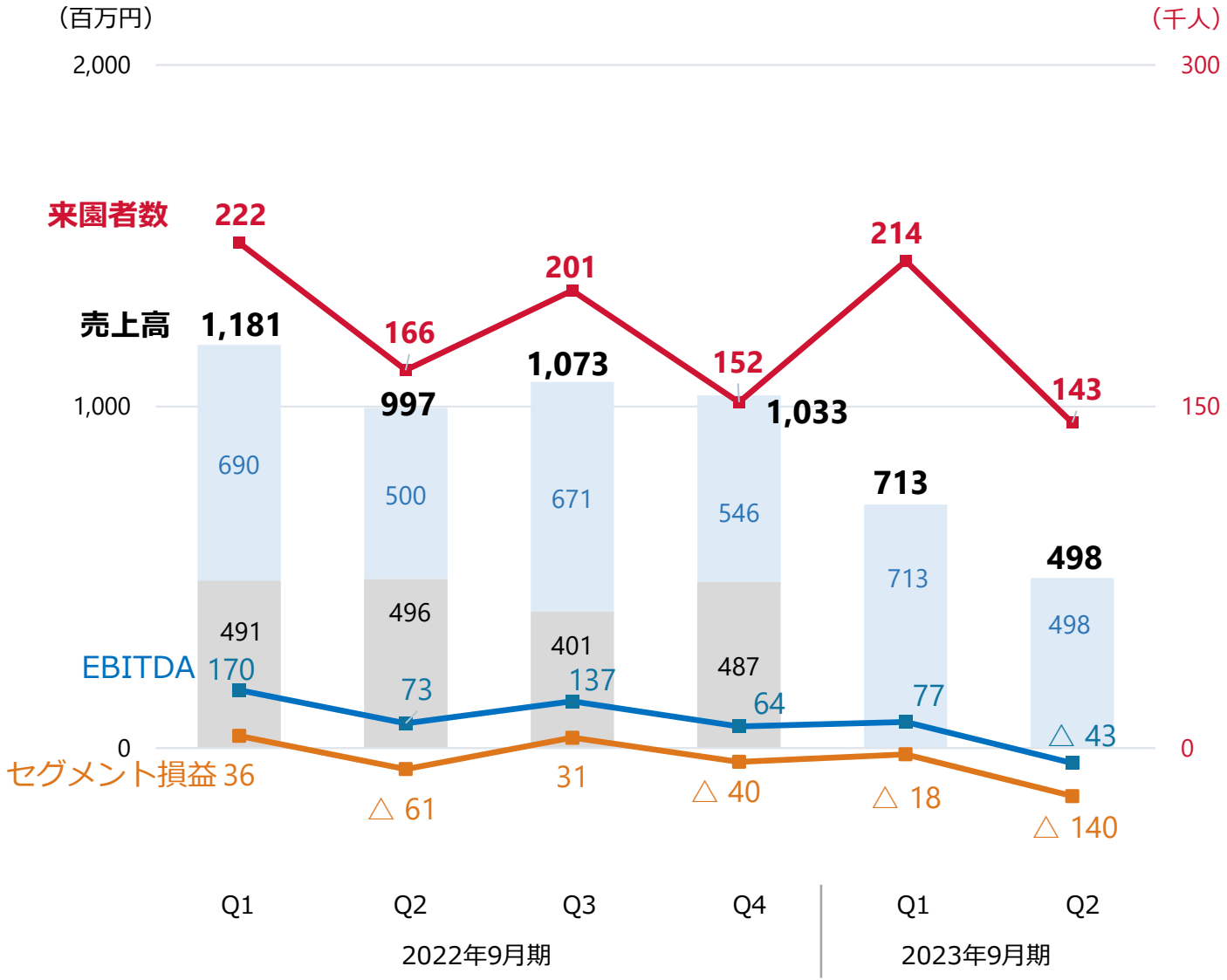
メッツァ関連
（㈱ムーミン物語、
㈱メッツァ）

ライセンス収入・
アニメ放映権収入
（RBJ）

(注)1　来園者数は、メッツァビレッジ・ムーミンバレーパークの合計。

2　売上高は他の報告セグメントとの取引を消去しない数値を使用。

3　EBITDAは、セグメント利益に売上原価、販売費及び一般管理費に含まれる減価償却費及びのれん償却費を足し戻して算出。



Copyright© FinTech Global Incorporated

メッツァのアフターコロナの経営戦略

レジャーやアミューズメント需要の本格的な回復を捉え、収益力を向上

メッツァビレッジ

北欧を感じる豊かな自然を活かした
アクティビティや体験、おいしさを提供

メッツァ駐車場料金の改定（4/1）
・平日の駐車場料金を有料化

アウトドア事業の強化
・BBQテラスを開始（4/29）

イベントの強化
・自然を活かしたイベント
・地域の産品を紹介するマーケット
・ペットと楽しめるドックラン

テナント戦略の見直し
・賃料体系の見直し
・テナントの一部見直し

ムーミンバレーパーク

『「北欧のブランド、ムーミン」を通して
Well-beingを体感できるパーク』へ改革を推進

主なマーケティング戦略

1．豊かな自然と、「北欧のブランド、ムーミン」の知名度を活かし、**他のパーク・施設との差別化を徹底**する。
2．RBJと連携し、**パーク外の収益力を強化**する。
3．**主ターゲットの子どものいるファミリー層へ向けた改装を実施する。**
4．**マーケティング業務をRBJと一体化**し、PR・CRMを共同運営する。

具体的施策

- 知育系ワークショップ（ヘムレンズアカデミー）を設立。
- 全天候型のボーネルンド監修の「あそび」と学びを共存させる「ムーミン谷のあそびのひろば」を期間限定オープン。今夏以降に第二弾、第三弾の改装を予定。
- スポンサーマーケティングの導入、地方自治体と協働したソーシャルマーケティング事業の導入。
- チケット価格の改定。

Copyright© FinTech Global Incorporated

ムーミンバレーパークのイベント

■展示施設「コケムス」のリニューアル

コケムス3階の一部エリアをリニューアルした
「ムーミン谷のあそびのひろば」が期間限定登場(4/28～)

北欧の知育プログラム（ボーネルンド社監修）を導入し、
天候にかかわらず、子どもも親もWell-beingを体験。

海のオーケストラ号のボールプール

ムーミン谷の空のトラック

モランのコロコロホイール

詳細は公式サイトへ　https://metsa-hanno.com/event/26023/

■ムーミン谷とアンブレラ

頭上をカラフルな傘で埋め尽くし、その美しさを楽しむ今年で4回目の恒例イベント。

2023年の新たな試みは、シャボン玉の演出と、トレンドのオーロラ素材を使用したアンブレラスカイです。
（4/28～ 7/2）

詳細は公式サイトへ
https://metsa-hanno.com/event/25743/

Copyright© FinTech Global Incorporated

© Moomin Characters ™

連結貸借対照表

（単位： 千円）

資産の部

		22年9月期	23年9月期 第2四半期	増減
	流動資産	11,022,806	11,240,986	218,180
	現金及び預金	2,375,927	1,747,229	△ 628,697
1	受取手形・売掛金・契約資産	1,113,702	1,073,142	△ 40,560
2	営業投資有価証券	2,482,469	3,303,117	820,648
	営業貸付金	371,665	353,265	△ 18,400
	販売用不動産	4,057,167	4,057,167	―
	商品	133,602	134,539	937
	その他	593,045	677,494	84,449
	貸倒引当金	△ 104,772	△ 104,969	△ 196
	固定資産	6,910,204	7,100,500	190,295
	有形固定資産	5,878,784	5,704,807	△ 173,977
3	無形固定資産	632,501	147,054	△ 485,447
4	投資その他の資産	398,918	1,248,638	849,719
	資産合計	17,933,011	18,341,487	408,475

負債の部

		22年9月期	23年9月期 第2四半期	増減
	流動負債	2,587,825	2,640,922	53,096
5	支払手形・買掛金	248,274	448,887	200,613
	短期借入金	―	52,500	52,500
6	1年内返済予定の長期借入金	529,252	756,067	226,815
	未払法人税等	133,150	116,079	△ 17,070
	リース債務	260,095	256,075	△ 4,019
	賞与引当金	191,888	179,888	△ 12,000
	その他	1,225,164	831,423	△ 393,741
	固定負債	7,502,492	7,449,010	△ 53,482
7	長期借入金	7,184,342	6,849,561	△ 334,780
	リース債務	158,022	73,555	△ 84,467
	繰延税金負債	19,737	106,460	86,723
	退職給付に係る負債	110,067	119,370	9,302
	その他	30,322	300,062	269,739
	負債合計	10,090,317	10,089,932	△ 385

純資産の部

	株主資本	6,524,040	7,001,949	477,908
8	資本金	6,471,266	5,372,574	△ 1,098,692
8	資本剰余金	4,996,716	960,465	△ 4,036,250
8	利益剰余金	△ 4,943,941	668,910	5,612,851
	自己株式	△ 0	△ 0	―
	その他の包括利益累計額	61,839	78,499	16,660
	新株予約権	56,359	74,387	18,027
9	非支配株主持分	1,200,454	1,096,717	△ 103,736
	純資産合計	7,842,693	8,251,554	408,860
	負債純資産合計	17,933,011	18,341,487	408,475

1. RBJの連結除外によりライセンス収入の売掛金がなくなったものの、公共コンサルティング事業による売掛金が増加した結果、前期末並みの残高となる。
2. 新規投資の実行や、事業承継案件のファンドが投資回収に至ってファンドの価値が向上したことにより増加。
3. アニメ放映権を保有するRBJの連結除外により減少。
4. RBJの連結除外（持分法適用関連会社化）、及び㈱トリニティジャパンの新規連結により増加。
5. 公共コンサルティング事業及び航空機アセットマネジメントの外部委託による買掛金が増加。
6. 長期借入金からの振替により増加。
7. 不動産小口化商品を組成したSPCの借入返済や1年内返済予定の長期借入金への振替により減少。
8. 2022年12月開催の定時株主総会決議により、減資、欠損填補を行う。
9. ㈱トリニティジャパンを新規連結したものの、RBJの連結除外により減少。

連結損益計算書

（単位： 千円）

		2022年9月期 第2四半期累計	売上比	2023年9月期 第2四半期累計	売上比	増減額	増減率
売上高	1	4,421,191	100.0%	4,530,710	100.0%	109,518	2.5%
売上原価	2	2,811,670	63.6%	2,149,152	47.4%	△ 662,518	△ 23.6%
売上総利益		1,609,521	36.4%	2,381,557	52.6%	772,036	48.0%
販売費及び一般管理費	3	1,649,476	37.3%	1,735,569	38.3%	86,093	5.2%
営業利益又は営業損失（△）		△ 39,955	△ 0.9%	645,988	14.3%	685,943	－
営業外収益		58,957	1.3%	4 71,852	1.6%	12,895	21.9%
営業外費用		70,804	1.6%	89,460	2.0%	18,655	26.3%
経常利益又は経常損失（△）		△ 51,802	△ 1.2%	628,380	13.9%	680,183	－
特別利益		15,691	0.4%	5 190,394	4.2%	174,703	1,113.4%
特別損失		1,362	0.0%	32,369	0.7%	31,006	2,276.2%
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失（△）		△ 37,473	△ 0.8%	786,406	17.4%	823,879	－
法人税等合計		42,909	1.0%	146,439	3.2%	103,529	241.3%
四半期純利益又は四半期純損失（△）		△ 80,383	△ 1.8%	639,967	14.1%	720,350	－
非支配株主に帰属する四半期純利益		122,724	2.8%	162,534	3.6%	39,810	32.4%
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失（△）		△ 203,107	△ 4.6%	477,432	10.5%	680,540	－

1 ㈱ライツ・アンド・ブランズ（RBJ）が連結除外されるも、PE事業における事業承継案件や航空機AMの売上高が増加。

2 主にRBJの連結除外により減少。原価率は前年同期から16.2ポイント減の47.4%となる。

3 RBJの連結除外に加えメッツァで費用を削減したものの、その他の事業は事業拡大のための人員増強や外部委託が増加したことにより、前年同期比5.2%増。

4 持分法による投資利益41百万円を計上。

5 ㈱トリニティジャパンの連結子会社化に伴う負ののれん発生益190百万円を計上。

Copyright© FinTech Global Incorporated

連結キャッシュ・フロー計算書

（単位： 千円）

	22年9月期 第2四半期累計	23年9月期 第2四半期累計	増減額
営業キャッシュフロー	**293,113**	1 **△ 194,935**	**△ 488,048**
税引前四半期純利益	△ 37,473	786,406	823,879
減価償却費	292,514	223,345	△ 69,169
支払利息	59,120	64,973	5,852
負ののれん発生益	―	△ 190,025	△ 190,025
売上債権の増減	△ 494,203	△ 151,812	342,391
営業投資有価証券の増減	293,375	1 △ 782,809	△ 1,076,185
営業貸付金の増減	36,850	18,400	△ 18,450
棚卸資産の増減	81,902	△ 46,089	△ 127,991
仕入債務の増減	240,342	202,176	△ 38,165
その他	△ 179,315	△ 319,498	△ 140,183
投資キャッシュフロー	**△ 84,771**	**77,634**	**162,406**
固定資産支出	△ 73,866	△ 57,488	16,377
連結範囲変更を伴う子会社株式取得による収入	―	2 280,137	280,137
関係会社株式取得による支出	―	△ 138,043	△ 138,043
その他	△ 10,905	△ 6,971	3,933

	22年9月期 第2四半期累計	23年9月期 第2四半期累計	増減額
財務キャッシュフロー	**△ 311,757**	**△ 163,092**	**148,665**
短期借入金の増減	△ 98,000	52,500	150,500
長期借入れによる収入	20,550	219,500	198,950
長期借入金の返済	△ 21,368	△ 227,465	△ 206,097
非支配株主への配当金支払	△ 99,011	△ 109,912	△ 10,900
ファイナンス・リース債務の返済	△ 114,198	△ 98,001	16,197
その他	270	286	16

現金等の換算差額	△ 2,006	△ 3,772	△ 1,766
現金等の増減額	△ 105,422	△ 284,165	△ 178,742
現金等の期首残高	2,379,230	2,375,927	△ 3,303
連結除外に伴う現金等の減少	―	3 △ 394,532	△ 394,532
現金等の期末残高	2,273,808	1,697,229	△ 576,578

1 事業承継案件へ投資により営業投資有価証券が増加。
営業活動によるキャッシュフローはマイナスとなる。

2 ㈱トリニティジャパンの連結子会社化により同社のキャッシュを取り込む。

3 ㈱ライツ・アンド・ブランズ（RBJ）の連結除外による減少。

Copyright© FinTech Global Incorporated

連結経営指標等の推移

		2018年 9月期	2019年 9月期	2020年 9月期	2021年 9月期	2022年 9月期	2023年9月期 第2四半期累計
売上高	（百万円）	3,689	9,175	6,841	8,107	9,301	4,530
売上総利益	（百万円）	2,261	2,944	2,313	3,370	3,990	2,381
営業利益又は営業損失(△)	（百万円）	△ 1,072	△ 1,664	△ 992	178	587	645
経常利益又は経常損失(△)	（百万円）	△ 1,227	△ 1,850	△ 1,135	115	540	628
親会社株主に帰属する当期純利益又は 親会社株主に帰属する当期純損失(△)	（百万円）	△ 820	△ 1,586	△ 1,186	130	176	477
純資産	（百万円）	8,551	8,873	7,304	7,439	7,842	8,251
総資産	（百万円）	14,016	19,025	16,583	16,457	17,933	18,341
１株当たり純資産	（円）	39.31	37.03	31.12	31.47	32.72	35.17
１株当たり当期純利益又は １株当たり当期純損失(△)	（円）	△ 4.79	△ 8.08	△ 5.90	0.65	0.88	2.37
潜在株式調整後 １株当たり当期純利益	（円）	–	–	–	0.65	0.87	2.36
自己資本比率	（%）	52.2	39.1	37.7	38.5	36.7	38.6
自己資本利益率	（%）	△ 13.5	△ 21.5	△ 17.3	2.1	2.7	–
株価収益率	（倍）	–	–	–	86.1	44.6	–
営業活動によるキャッシュ・フロー	（百万円）	△ 2,978	△ 2,604	680	747	△ 701	△ 194
投資活動によるキャッシュ・フロー	（百万円）	△ 2,008	△ 4,543	△ 282	△ 173	△ 141	77
財務活動によるキャッシュ・フロー	（百万円）	5,771	5,710	△ 767	△ 360	802	△ 163
現金及び現金同等物の期末残高	（百万円）	3,847	2,513	2,142	2,379	2,375	1,697
従業員数（連結） (外、平均臨時雇用者数)	（人）	156(47)	167(262)	156(224)	149(209)	176(144)	150(167)
従業員数（単体） （外、平均臨時雇用者数）	（人）	38(5)	39(5)	28(6)	28(4)	30(4)	27(5)

Copyright© FinTech Global Incorporated

フィンテック　グローバル株式会社　会社概要

本店所在地	東京都品川区上大崎3－1－1　目黒セントラルスクエア15階
設立	1994年12月7日
代表	代表取締役社長　玉井　信光
上場日	2005年6月8日
証券コード	8789 (東京証券取引所 スタンダード市場)
事業年度	10月1日から9月30日まで
事業内容	①投資銀行業務　②投資業務 ③投資運用業務　④地域課題ソリューション
発行済株式総数	201,305,200株　(2023年3月31日現在)
単元株式数	100株
資本金	5,372百万円　(2023年3月31日現在)
連結純資産	8,251百万円　(2023年3月31日現在)
連結従業員数	150名　(2023年3月31日現在、臨時従業員含まず)

フィンテック / FinTech (登録5113746)・FinTech Global (登録5811521)・フィンテックグローバル (登録5811522)・FGI (登録5113748)は、
フィンテック グローバル株式会社の登録商標であります。

Copyright© FinTech Global Incorporated

免責事項

本資料は、当社およびFGIグループの2023年9月期第2四半期決算に関する情報の提供を目的としたものであり、有価証券にかかる売買、金融商品取引に係る契約等いかなる商品の勧誘をするものではありません。

本資料に記載されている、各種資料・文書には、当社またはFGIグループに関連する見通し、方針、経営戦略、目標、予定、事実の認識・評価などといった、将来に関する記述をはじめとする歴史的事実以外の事実を記載しているものが含まれていることがあります。これらの歴史的事実以外の事実（以下、「将来情報」ということがあります）の記載は、当社またはFGIグループが入手した情報に基づく、当該資料・文書の日付（または当該資料・文書に別途明示された日付）時点における予測、期待、想定、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。また、見通し・目標等を策定するためには、過去に確定し正確に認識された事実以外に、見通し・目標設定等を行うために不可欠となる一定の前提（仮定）を使用しています。これらの記述ないし事実または前提（仮定）については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もありません。したがって、これらの記述ないし事実または前提（仮定）が、客観的に不正確であり、将来実現しないという可能性がありますが、その原因となりうるリスクや要因は多数あります。将来情報は、将来発生する事象、リスク、不確実性を内包する要因を含んでおり、そうした前提は、当社またはFGIグループの実際の業務・業績に著しい悪影響を及ぼす可能性があります。かかる要因には、日本国、米国、アジアあるいはその他の国・地域における経済状況の悪化、不動産価値または株価の下落、FGIグループの貸出先の産業分野における企業破綻の増加やその他問題の発生、当社の経営統合およびコスト削減期待の実現の困難化または遅延、競争の激化、FGIグループの業務に関わる法令規則の改正、FGIグループにとって不利益となる日本国経済その他の政策の変更が含まれます。

なお、将来情報に関する記述を含む資料・文書が本資料に記載されている間においても、当該将来情報は上記のとおり当該資料・文書の日付（またはそこに別途明記された日付）時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。

Copyright© FinTech Global Incorporated